

東邦キャンパス

平成 24 年 (2012 年) 1 月 1 日

発行 学校法人 東邦学園

〒465-8515 名古屋市名東区平和が丘 3 丁目 11 番地

TEL 052 (782) 1241 FAX 052 (781) 0931

 H P click!  愛知東邦大学
東邦高等学校


平和な時代へ 願いを込め

新たな年を迎えました。2011年は東日本大震災、なでしこジャパン優勝、タイの大洪水、政権独裁者の死去・退陣など、鮮烈かつ一生忘れぬ出来事が相次ぎました。大震災ではボランティア活動で直接体感した生徒・学生らもいました(7ページに関連記事)。2012年は平穏な年になるのでしょうか。

忘れない、忘れてはならない歴史を伝えるため、学園が催してきた行事に「慰霊の日」追悼式があります。1944年12月13日、東区にあった三菱重工名古屋発動機製作所大幸工場が爆撃され、勤労働員中の東邦商業の生徒18人と引率の教員2人が亡くなりました。戦死した卒業生も少なくありませんが、在学生在が命を落とす悲痛な歴史を重い教訓にと、1995年に弾痕の残る工場外壁の一部を学園が譲り受けて、東邦高校に設けたのが「平和の碑」です。毎年12月に同級生だった辰巳会の方に参列していただき、追悼してきました。昨年12月5日は、午前には長沼均俊校長が全校放送、午後には碑の前で榊直樹理事長が挨拶(3ページ参照)、生徒会長の山村紗慧さん=2年=が誓いの言葉を述べた後、参列者で献花しました(上の写真)。

右の写真は11月19、20日に開かれた愛知東邦大学の大学祭で、ベトナムの留学生6人が母国料理をこしらえた店です。ファン・ティ・ゴック・ハンさん=経営学部3年=らの春巻や串焼きは大好評でした(6ページ参照)。大学では中国、韓国、モンゴルからも留学生、高校も中国、ニュージーランド、豪州の姉妹校から生徒が来ます。高校からも姉妹校、大学も米国の大学に留学しています。生徒・学生の行き来が相互理解を深めています。



年頭所感



風化と持続

愛知東邦大学学長 成田 良一

新年明けましておめでとうございます。

2011年は世界中で大事件が連続した年でした。チュニジアのジャスミン革命に端を発したアラブの春、未曾有の東日本大震災、津波が誘発した福島原発事故、タイの大洪水、ウォール街占拠、ユーロ危機など、さまざまな出来事が起こりました。特に、国内で起こった大震災と原発事故の被災者の方には心からのお見舞いを申し上げ、また亡くなられた方のご冥福を祈りたいと思います。年が変わったからといってこれらは終わってはいません。解決まで時間がかかることが数多くあります。

一つの出来事があると、現代の社会では玉石混淆の数多くの情報が飛び交い、瞬く間に消費され、しだいに風化して過去のものとなっていきます。中には意図的に風化をはかるような操作が行われることもあります。私たちはそれらに左右されることなく、真実を追求したいものです。

2011年には多くの人に関心を持ち被災地の復興支援に参加しました。原子力発電から脱しクリーンエネルギーの実現を模索する動きもありました。しかし、大震災の復興には数年かかり、また原発事故については処理や解決に数十年を要します。私たちは警鐘を気に留めずに危険な技術を使ってきました。その結果が学生や私たちの子どもの世代にまで大きい影響を与えます。原発を傍観してきたことを私は反省しています。

3.11を風化させることなく、持続する志を持って、2012年も復興に向けて取り組みたいものと気持ちを新たにしています。

それぞれの人にとって、今年が実り多い年であることを祈ります。



希望を灯す

東邦高等学校校長 長沼 均俊

保護者の皆様には、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。旧年中は、本校の教育活動全般にわたり、ご理解とご協力をいただいたことに深く感謝しております。

さて、昨年(2011年)の3.11大震災は、私たちにとって改めて「命の尊さ」に向き合う契機となりました。大津波や原発事故の傷跡は今も深く、復興に向けた諸課題への対応には、未来の日本社会のあり方が根本的に問われています。

本校では、生徒会活動による震災関連企画、有志によるボランティア活動、学園・高校としても見舞金その他、ボランティアへの費用援助や震災シンポジウムなどにも取り組んできました。

震災後、緊急支援で派遣されたスクールカウンセラーによる「児童生徒の心のケア」は、今なお必要とされていますが、これは前の阪神・淡路大震災の教訓から得たものです。専門家は、「我慢で緊張した子どもの心を解きほぐすには、大人がしっかりと子どもの声を聞き取ることが大切」と、大人の対応に配慮するよう訴えています。

命を尊び、人と人が支え合う精神風土の醸成は、社会全体で取り組むことが望まれますが、今こそ学校教育の中で生徒たちに深く理解させることが期待されているはずで、本校は、今年も授業や学校行事・クラブ活動をとらして「命の尊さ」に対して誠実に向き合い、「奉仕の精神」を涵養する中で誰からも信頼される人づくりに努力していきます。それが、困難な時代に一隅でも照らすことのできる希望の灯になると信じます。





建学の精神を 読み返す

東邦学園理事長 榊 直樹

2012年です。被災地で辛い日々を過ごされている方々を想うと、新年を平穏に迎えられたことに、私たちは改めてありがたみと感謝の念をかみしめるのではないのでしょうか。

学園は今春、創立90年目に入りますが、満100年となる2023年に向け、「100周年事業計画」を立案しています。様々な歴史を経てきました。開学半年後に関東大震災、教員と生徒も犠牲となった15年間の戦争、東邦の名を全国に広めた選抜甲子園初出場での初優勝、敗戦と学制改革、短大開設、高校の男女共学化、大学開設……。今後も着実に歩むため、学園の姿はどうあったらいいのかを考えています。

最も大切にしたい理念は、建学時の精神です。創設者・下出民義先生は開学2年後の1925(大正14)年7月、『東邦』創刊号の巻頭にこう説いておられます。

「…本校教育の理想は^{あくまで}飽迄人格教育にある。商業学校は商業丁稚の代りではない、将来実業に従事する人の技術をのみ習得せしむるに当るのではなくて、之に従事するに必要な人格を作る事が何より大切である。近代経済の根本基調は信用にある。…最も重要な要素は、信用ある人でなければならない。…乍併人格は自然に発揚せらるるものではない。鍛錬と陶冶^{とうや}によりてのみ光を増す。鍛錬と陶冶とは即忍耐である、忍従である、意馬心猿の儘に放任して置ては光ある人格は出来ない。…」

第一次大戦による特需が去って景気が急速に悪化し、関東大震災が追い打ちをかけた時代でした。90年近く下った現在もそっくりです。金融資本主義の清算を迫られたリーマンショックと昨年の欧州の信用不安、さらに東日本大震災。

下出先生の言葉を要約すれば「信用ある人格を育てるため、鍛錬と陶冶」に努めよということでしょう。東邦学園はしっかりとした学びの場であり続けること、100周年に向けた使命を強く確信しています。

「慰霊の日」 理事長挨拶 = 要約



最も重い記憶を刻み直す日を迎えました。1944年12月13日、B29が三菱重工大幸工場に爆撃、生徒18人と先生が亡くなりました。歴史の厳しい戒めを伝える使命を新たにするものです。

戦後の日本は戦死者を一人も出さずにきましたが、今年は生命と人々のつながりを深く考え直す年でした。東日本大震災です。

情け容赦ない自然の猛威に衝撃を受け、深い悲しみに突き落とされました。一方で、町民を守ろうと津波が迫り来る最期の瞬間まで避難放送を続けた若い女性職員、屋根によじ登り手に釘を刺して濁流の中を生き延びた住民の姿に、誰もが胸打たれました。飢えと寒さの中でもいたわり合い、静かに配給を待つ被災地の様子に、世界から賛辞と敬意が寄せられました。東邦高校と愛知東邦大学からもボランティアに出向きました。

福島原発からは放射性物質が噴出、住民が生活の場を奪われました。金子みすゞさんの『砂の王国』という詩があります。

私はいま 砂のお国の王様です。／お山と、谷と、野原と、川を、おもう通りに変えてゆきます。／お伽ばなしの王様だって、じぶんの国のお山や川を、こんなに変えはしないでしょう。／私はいま、ほんとにえらい王様です。

文明に鋭い警句を発したかったのでしょうか。現代の戦争は一発の砲弾も発せずに敵国を混乱させ、金融も交通も原発も制御不能に陥らすことができます。コンピューター攻撃です。快適な生活の実現と共同社会を破壊する技術は共通しています。

諸刃の剣を賢く使いこなせるのは人間。その学び育つ場の一つとして、役割の重さを改めて受け止めます。学園は皆さまの痛みをかみしめ、次代の健全な担い手を送り出します。

高校の行事

生徒の満足度98%の学園祭

体育祭は9月28日(水)に好天の中、全校生徒・教職員の協力で競技種目、団体種目など予定通り全てを実施できました。各団の練習の成果を出し合い総力をあげた応援合戦、伝統の1年生全員による花笠は盛り上がり彩りを添えました。



恒例の花笠踊り

9月30日(金)・10月1日(土)に行われた文化祭は、テーマ「東邦〇〇発信所com.」を掲げ、クラスやクラブごとに企画に取り組み、趣向を凝らし完成度の高いものを目指し、仲間と力を出し合って、1つのものをつくりあげる喜びを実感することができました。来場者も2日間で4,000人を越え、中学生は311人が参加しました。

学園祭本部企画「ズームイン!東邦」では、東日本大震災を取り上げ、宮城県石巻市の石巻市立商業高校から高校生と先生を招き、『高校生の視点から見た今回の震災』というテーマで、東北地方でがれき処理などのボランティアに参加した本校生や学園祭実行委員が、震災からの復興や現在の高校生たちの思いを対談しました。「被災した方々の支えになっていきたい」という思いを強く感じることの出来る企画であり、来場者も真剣に聞き入っていました。



学園祭実行委員会企画

司法書士の仕事について学ぶ

商業科教諭 山本 俊秋

11月14日(月)、愛知県司法書士会の主催による市民法律講座が開催され、3年生の商業科96人が司法書士の花井氏と杉浦氏より講義を受けました。日ごろの学習成果を生かし、各自が模擬司法書士事務所になり、「インターネットオークションでコンサートチケットを落札したが、実際には届かなかった」と相談者が来たという想定で、講義が行われました。各班でその対応策を考え、司法書士事務所の立場で発表を行いました。そのほか、消費者関連の詐欺についての講義を受け、生徒は興味深く聞き入っていました。司法書士という仕事、そして資格について理解を深めることができました。



インターンシップ

進路指導室 池田 暁生

今年東邦高校では1年生を対象に初めてインターンシップを実施しました。大学生は在学中に経験する学生がいますが、高校生の実施はまだまだ一般的ではありません。最近では、公立高校の一部で短期間の実施が取り組み始められていますが、十分に普及している状況ではありません。

東邦高校では、インターンシップで将来の自分自身を見出し、今後の学びの動機づけにするために教育の一環として取り組みました。今年度は1年生で4人の生徒が参加しました。参加者はそれぞれ異なる業種での実習に就き、将来の「働く自分」を体験することができたと思います。この経験は、何よりも生徒自身の

成長につながりました。インターンシップ終了後に教職員や生徒の前で報告会を実施しましたが、参加生徒はインターンシップを通じて学んだこと、感じたこと、今後の課題などについて自分の気付きを素直に、そして一生懸命に発表していました。生徒たちの発表する姿は、今後の高校生活への期待と自信に溢れていました。次年度はより多くの生徒たちに参加してもらえようなプログラムの構築に取り組んでいきます。



オーダーされたパソコンの組み立てを手伝う生徒(左側)

2011年度 第19回未来の芸術家たち展

今年度も4月から卒業制作展準備を授業に組み込み、日本画、油絵、彫刻、デザイン、GDの分野で様々な



作品に取り組んできました。搬入、展示当番、搬出まで、大きな問題もなく無事に終わることができました。10月25日(火)～30日(日)の来場者は合計で1,641人(昨年1,678人)、本校の諸先生をはじめ、近隣の芸術大学学長や関係者、中学校教諭、卒業生、ほかにも多岐にわたる方々にご来場いただきました。ご多忙の最中たくさんの方にご高覧いただき深く感謝いたします。出展した54人にとって、作品制作、会場の設営、展示中に来場された皆様からの反響など、卒業制作での経験は卒業後の進路や活動に向けて大きく活かされるものとなりました。

2年生修学旅行

(平和学習、長崎班行動、火山を体験しました)

2年学年主任 中林 幹雄

2年生の修学旅行は、11月に1団～3団(A～L)が1日目柳川、2日目長崎、3日目雲仙・阿蘇、4日目熊本城・太宰府天満宮と3泊4日で中北九州へ行ってきました。初日に小雨にあった団もありましたが、天候に恵まれ暖かな中での旅行でした。



長崎平和祈念像前にて

前半は、長崎被爆者の講話、平和祈念セレモニー、原爆資料館見学と平和学習を実施し、後半は、長崎での班別行動から雲仙岳災害記念館、阿蘇山・草千里、熊本城、太宰府天満宮と長崎の町並みや火山と自然に親しみました。柳川の船頭さんの軽妙な案内も心に残りました。この修学旅行でクラスの友達とも色々な話ができ、一層団結できました。

大学の行事

『絆』をテーマにした「和丘祭」

大学祭運営委員長 宗貞 秀紀

東邦学園短期大学時代から継続して展開されている学生主体の祭典「和丘祭」は、今回で通算47回目となり、11月19日(土)・20日(日)の2日間開催されました。

あいにく、初日は低気圧の通過による雨天のなかでの決行となりました。事前準備を行ってきた学生達は、雨のなか掛け声をかけながら、模擬店・展示・講座・講演会などの開催に力を注いでいました。プログラムも、年々豊富な内容となっています。

2日目は晩秋気温ながら太陽が大学祭会場に降り注ぎました。地域の方、卒業生、保証人、他大学の学生、高校生と多数の来場者を迎え、さまざまな交流と笑いを築くことができました。

学生による大学祭実行委員会では、本年のテーマを「絆」(きずな)と決めました。東日本大震災を契機として、人間と人間の支え合



いや助け合いは他人事ではなく、人としての必修理念と実践が求められました。まさに人は、自分と他者の連帯・博愛精神を担保としなければ、自由・平等な人の生活は満たされないものでもあります。

これからの大学の運営と学びは、「地域と共に」がテーマです。大学祭もその一つで、重要な祭典といえます。

第3回 TOHOサッカーフェスティバル開催!!!

人間学部人間健康学科4年 角 朋香

9月23日(金)第3回TOHOサッカーフェスティバルが愛知東邦大学の日進グラウンドで開催されました。このフェスティバルは、大学の授業の一環で学生によって企画・運営され、指導の実体験として、また地域社会との交流の場として実施されました。

普段関りの少ない学生たちが、去年の反省を活かし意見や案を出し合いながらリハーサルを重ね、準備をする中でコミュニケーションを深めてきました。

当日はサッカー少年団に所属している小学校1・2年生100人を超える子どもたちが参加してくれました。実際に多くの子どもたちを目の前にして、指導することの難しさや子どもの予測不可能な動きに臨機応変に対応することの難しさを学びました。

私は将来、保健体育の教員を目指しているの、こ

の経験を活かして、子どもたちの目線に立って物事を考えられる教員になりたいと思います。

2011年度野外活動実習Ⅱ (マリンスポーツ実習)

人間学部人間健康学科教授 石川 幸生

夏季恒例のマリンスポーツ実習が、9月6日(火)～9日(金)3泊4日の日程で、静岡県湖西市にある「ピラ浜名湖&ユタカマリーナ」を拠点に、人間学部人間健康学科3年生の希望者を対象に実施されました。



全日程、天候に恵まれてプログラム(開講式から始まり、各種レクリエーションスポーツ、また、マリンスポーツ種目「ウェークボード、スクーパーダイビング、ボートセーリング」等の実習)が、怪我なく有意義な実習として予定通り終える事ができました。この体験実習が、学生達にとってこれからの野外活動指導に役立つものと確信しています。

多種多様なインターンシップを実施

経営学部地域ビジネス学科助教 手嶋 慎介

本年度は、経営学部3年生17人・2年生16人、人間学部3年生2人・2年生2人の計37人が国内の事業所でお世話になりました。国内ばかりでなく、学修支援センター小



海外インターンシップ (中部国際空港にて)

柳津久美子准教授の引率指導により韓国での海外インターンシップも実現しました。また、内閣府地域社会雇用創造事業の一環として、NPO法人アスクネット様との連携による「ソーシャルビジネス実習」も実施し、多様なプログラムを実現することができました。

実習を終えた学生諸君のレポートは『インターンシップ報告集2011』『2011年度 海外(韓国)インターンシップ報告集』として取りまとめました。



ソーシャルビジネス実習 (特定非営利活動法人生き生きネットワークにて)

その後の学生たちは、さらに積極的な活動を継続しています。アメリカへの留学、実習先NPO主催のまちおこしボランティアに参加、東北まで自費でボランティアに向かう学生、などさまざまです。今後の活躍が期待されます。

石巻で愛知東邦大学生ら 23人がボランティア

愛知東邦大学ではボランティア論担当教員の呼びかけに応じて学生21人と教職員2人が、10月23日(日)から26日(水)まで宮城県石巻市(牡鹿半島)で漁村支援のボランティアに従事しました。これには大学も往路のバスを出すなど支援し、現地では国際ボランティア組織「ピースボート」の指揮下に入って、5班に分かれて活動しました。

牡鹿半島の沿岸漁村は全国有数のカキやワカメの養殖地帯でしたが、ほぼ壊滅状態に陥り、一時は再起不能とも見られていました。それがガレキから使える資材を拾い出すなどのボランティアの支援や、漁民の再生意欲の盛り上がりでようやく事業再開の動きになったもの。朝6時から、ワカメのタネ付けやそれを海中に張り渡す海上作業などに参加しました。



大学のバスで東北へ向かう



わかめの種を養殖場へ運ぶ

【参加した学生の声】

傍観者でいたくなかった

経営学部地域ビジネス学科2年 小林 将吾
私が東北ボランティアに参加したのは傍観者でいたくなかったからです。募金なども一つの手ですが、自分の中では直接手伝いたい！という気持ちが強かったです。ただ、一人ではなかなか行けずにいた時、身近な大学でボランティアに行けることになったので即決しました。

牡鹿半島の被災した漁村で1日目は農業支援、2日目は漁業支援でわかめ養殖の手伝いをしました。畑の修復にしても、10人一日がかりで終わらないのに一人だったら…と思うと、やめたくなる被災者の気持ちがわかりました。被災者はボランティアの手伝う姿を見て漁業を続ける気になったそうです。たいした作業はできませんでしたが、「ボランティアは積み重ね。今日やったからこそ次のステップに行ける」とピースボートの人に言われ、納得しました。

教育実習を経験した学生の声

人間学部人間健康学科4年 Aさん
中学一種・保健体育教員免許をめざして、中学校で

3週間の教育実習をしました。

最初は、1日の流れや中学校の先生生徒も分かっていなかったで、挨拶、笑顔、そして生徒の前では何があっても堂々しようと思っていました。一人ひとり生徒の事を知りたい、早く名前と顔を一致させたい気持ちが強く、自分から積極的に話しかけよう意識していました。

先生方を見ていて、朝から保護者の電話対応や「〇組の〇〇が～した」などと言った事は日常茶飯事で、先生方に呼びかけや協力している姿を見て、私も生徒の為に何かしたいと思いました。また、先生が「この実習で生徒に何を伝えたいのか、どんな力をつけさせたいのかを考えてみてください」と言われ、考えるたびに自分とも向き合えた気がします。

授業実習をする日まで4日ありましたが、たった4日でたくさんの生徒から学び、また自分のふがいなさを感じていた次の日に、人生で初めての授業を行いました。あまりの緊張に内容も飛んでしまい、生徒たちにとっては面白みのない授業だったと思います。今まで勉強をまじめに取り組んでこなかったで、言葉の知識も、考えたり考えさせる知識もなく、悔しくて悔しくて泣いてばかりの日々でした。

そんな中で指導教官は、「最初からすべてうまくいくことなどありません。3週間で何か一つでも成長してくれたらいい」「一つひとつ丁寧に確認していきましょう」など、声をかけてくださって、本当に心がすっと軽くなって視野が広がった気がしました。先生の言葉や日記のコメントも私の宝物です。温かい目で指導してくださった先生方に本当に感謝しています。3週間ありがとうございました。

NSCA-CPT資格に合格

愛知東邦大学は、中部地区唯一のNSCA(※)認定校です。

10月30日(日)に大学でNSCAジャパンのCPT(パーソナルトレーナー)資格試験が実施され、大学から2人の学生が合格しました。

トレーナーをめざす学生たちはCPT資格やCSCS資格取得にむけて頑張っています。

(※)NSCA(National Strength & Conditioning Association)とは、現在52カ国、約3万人の会員を有している米国で最も権威のある非営利教育団体です。『ストレングス&コンディショニング(S&C)』(筋肉トレーニングと、体力要素を最高の状態に調整すること)の基準とガイドラインを構築しています。スポーツ障害予防とパフォーマンス向上を目的として、プロのアスリートを指導する、資格認定者を育成しています。

大学生の 就業力育成 支援事業

本格的に始動

学修支援センター長 中山 孝男

今年度4月から新入生に対して始まった就業力育成支援事業の、これまでの進捗状況をお知らせします。

まず、学生ポートフォリオシステムの運用を開始しました。新入生全員に無償貸与したiPod touchとこのシステムを使って、受講記録を行えるようにしました。また、学生一人一人が目標を立て、その目標管理にも学生ポートフォリオシステムを利用しています。これについてはキャリアアドバイザーが個別面談などで助言をしています。昨年6月には、就業力マイスター奨学生制度が発足し、候補生を募ったところ多数のエントリーがありました。1月には奨学生の募集を行い、審査を経て、3月には結果を発表する予定です。

上の事業以外に、正課内の授業科目で就業力育成関係の教育も行っていますし、PBL(Project-based Learning)という教育手法のパイロット授業をとおして、将来の地域連携PBLの実施にあたっての課題等を検討することも始めております。



地域連携プロジェクトはじめての一步

経営学部地域ビジネス学科助教 手嶋 慎介

専門演習(手嶋ゼミ3年生)では、2010年度文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に採択された「地域連携PBLを核とした就業力の育成」のパイロット授業として「地域MAPプロジェクト」に取り組んでいます。

11月の和丘祭では、その中間報告としてプロジェクトの進捗状況や役割分担などを紹介するポスター展示を行いました。12月には名東区役所主催「つながるひろがる The Big Family MEITO めいとうオトナ家族カイギ」の座談会パートナー

として参画しました。このカイギでも連携した「めいとうまちづくりフォーラム実行委員会」の皆さんには、プロジェクトの計画段階からその評価まで多大な支援をいただくことができました。

地域MAP作成に際しては、地域の不動産会社へのアポ取りから協力を取り付けるまで、さまざまな苦労がありました。今後、就業力を身につけるだけでなく、身につけた力を使って自分たちで地域にどのような貢献ができるのか、さらに大きな課題に向かっていきます。

就職

真剣に課題に取り組んだ就職合宿

就職委員長 深谷 和広

就職合宿は2009年度文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」の学生支援推進プログラム「小さな大学のキャリア支援～大きな夢を育てる就職合宿～」として3年間にわたり大学全体で取り組んでいます。

本年は人間学部子ども発達学科3年生(10月15・16日)、人間健康学科3年生(10月29・30日)、経営学部地域ビジネス学科3年生(A班11月12・13日、B班12月3・4日)計4回「グリーンホテル三ヶ根」にて実施しました。

ホテルに到着してすぐに座学をし、昼食後、「1分間で自己PRを話す」という課題のもと、学生たちは緊張した面持ちでさっそく最初の面接に取り組みました。また夕食後も自己PRを再点検し、夜遅くまで翌日の志望動機の作成のため自己分析に取り組みました。翌日は、志望動機を課題とした模擬面接に取り組みました。

1泊2日の研修を通じて緊張しながら堂々と発表する学生1人1人の姿が印象に残りました。



就職活動を振り返って

人間学部人間健康学科4年 伊藤 諒

私が就職活動を始めたのは3年生の11月頃でした。最初は戸惑いましたが就職課に行き相談にのっていただくことで自分なりに考え、履歴書の作成に励みました。また、始めはパソコンの画面だけで行きたい企業を判断していましたが、就職活動を進めるうちに自分が知らない企業でも良い企業がたくさんあることを知りました。まずは興味をもった企業の説明会に積極的に参加して、実際に社員の方の生の話を聞き、自分に合っているかどうかを判断することが重要だと分かりました。

これから就職活動を始める後輩に向けてのアドバイスは以下の通りです。

1. SPI(筆記試験)の勉強をしておくこと
2. 「良いこと」を話そうと背伸びをするのではなく、ありのままの自分で面接に臨むこと
3. 面接で入室する時は大きい声でハキハキと挨拶すること

採用試験が進むにあたって、良い結果が出なかった時は落ち込みますが、自分とこの企業は合わなかったんだと思い、次に切り替えて、自分の将来のために最後まで諦めないで頑張ってください。

国際交流

国際交流室から

高校 国際交流室長 伊藤 保憲

4月にクライストチャーチからやってきたSam君は、すっかり日本の生活にも慣れ、楽しく学校生活を送っています。クラスメイトと一緒にいった北九州修学旅行も大きな思い出になりました。めきめき日本語も上達していて、今は日常的な会話はほとんど不自由がなくなってきました。帰国まであと2カ月ほどですが、勉強に思い出作りに精一杯の毎日を送ってほしいと思います。



オーストラリア英語研修

本校13人の生徒たちは夏休みにオーストラリアの姉妹校、サレジアンカレッジに英語研修で出かけました。到着したばかりの頃は英語が通じず、苦勞もありましたが、ホストファミリーや学校の先生、新しいお友達

の優しさに触れて、すぐに不安は吹き飛びました。見たこと、聞いたこと、食べたもの…すべてが新鮮で、まさに感動の連続。この夏の経験は、必ず将来の豊かな生き方につながることでしょう。

12月にはサレジアンカレッジから1カ月間の留学生を受け入れました。Alana Ceriniさん。たった1カ月間の滞在でしたが、日本で冬のクリスマスとお正月も体験し、日本を満喫して帰国しました。

韓国からのお客様もお迎えする機会がありました。教育関係者の視察で、特色ある国際交流を行っている学校の見学ということで、光栄にも本校をお選びいただきました。

グローバル化が進み、文化と文化が出会う機会がますます増えていくことでしょう。このような時代に国際交流という教育の場をこれからも大切にしていきたいと思います。

エベレット・コミュニティ・カレッジ 学生のインターンシップ

大学 地域国際交流委員長 小野 隆生

2011年度の地域国際交流委員会で最大の業務は、何と言っても、姉妹校であるエベレット・コミュニティ・カレッジの学生4人のインターンシップを成功させることでした。6月24日(金)マユミ・スミス先生引率のもと、来日した男子学生2名、女子学生2名は、本学でのガイダンス、授業参加、近隣都市の観光等を数日間挟みつつ、8月9日に帰国するまで1人1人別々の会社で研修を重ねていきました。引率のスミス先生は1週間ほどで帰国されましたので、さぞかし心細かったのではないのでしょうか。それでも、彼らは、約2カ月間の研修に真面目に取り組んでくれました。彼らが帰国した次の日、私と学生課の阪口氏で今回の研修を引き受けてくださった4つの会社にお礼の挨拶をしに出かけましたが、先方の感想は概ね良好なものでした。



日本での研修を終えたエベレットの学生

このインターンシップは2012年度もまた実施されます。研修期間は短縮されますが、人数は6名と増えますので、今回お引き受けくださった会社に引き続きお願いできるだろうかという心配もあったのですが、「是非とも引き受けたい」「3人でも4人でもOK」というありがたい言葉をいただきました。今回の研修を快くお引き受けくださった丸美産業、石黒体育施設、名古屋国際ホテル、東海典礼の方々、そしてその他のお世話になった方々に御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

地域創造研究所

地域創造研究所所長 御園 慎一郎

昨年3月11日に発生した東日本大地震は、東北地方や北関東沿岸部に壊滅的な被害を与えました。被災地支援は国民あげて取り組まなければならない課題です。さらに、東海地震、東南海地震への備えも待ったなしの状態です。

本研究所においては、今回の被災状況を把握しさらに地域の災害対策を考える研究会を、地域の皆様とともに開催しました。1回目は震災直後に救助活動にあたった名古屋市消防局の瀬藤氏から被災直後の現場の状況を。2回目はボランティア団体「NPOレスキュー



観光庁長官溝畑宏氏(右側)との対談

とボランティア活動の大切さを。3回目は被災地でボランティア活動した大学の教職員と高校生・学生から現地地で得たこと感じたことの報告



名古屋ガーデンパレスで行われた講演会

を受け、意見交換をしました。4回目の研究会は「被災のための地域づくり」をテーマとして2月に開催する予定です。

また、11月8日に愛知東邦大学開学10周年記念講演会として、被災によって大きな影響を受けたわが国の観光を考えるとという観点も踏まえて「観光立国の実現に向けた取り組み ー地域からの視点を踏まえてー」というテーマで溝畑宏観光庁長官による講演会を行いました。

さらに、学内の定例研究会として、2回の研究会を開催しております。

驚きの戦時下の雑誌展

地域創造研究所では11月19日(土)、大学祭の一環として「第二次大戦前・戦中・戦後の主要雑誌変遷展」を開催しました。東邦学園下出文庫所蔵資料による5回目の展示会です。

展示されたのは、アメリカの写真週刊誌『LIFE』や『Newsweek』『TIME』、名古屋で発行されていた経済雑誌『産業之日本』、戦時中表題を変えさせられた経済誌『エコノミスト』、『サ



卒業生らも興味

ンデー毎日』など100点ほど。榊直樹学園理事長、安保邦彦元本学教員、木村直樹氏(書店経営者)らによる解説も行われました。当日は学生や卒業生のほか、他大学の教員や研究者など40人ほどが参観されました。

戦時中にアメリカで報道されていた日本の紹介や真面目な写真誌に半裸の女性が登場するなど、硬直した内容の日本の雑誌とのあまりの違いに驚きの連続でした。しかもそれが日本の民間人(本学園初代理事長下出義雄氏)が入手されていたのも驚きでした。



戦時中のアメリカの雑誌に驚き

学生・地域の人に親しまれる愛知東邦大学図書館 様々なイベントを開催

★Event 七夕まつり(6/24~7/7)

恋の願い事や資格試験の合格祈願などが書かれた62枚の短冊が飾られました。七夕や星座の絵本も展示しました。

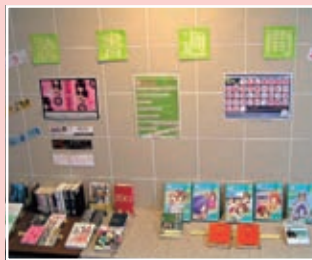


★Event 読み聞かせコンクール(11/10)

第3回を迎えたこのイベントに5人の子ども発達学科の学生がエントリーしました。館長賞は、すばらしいパフォーマンスで観客を魅了した1年生の田中翔太君(写真中央)でした。



★Event 読書週間展示(10/27~11/11)



なんとか本に親しんでもらいたい一心で、「ラノベ」「もしドラ」「スポーツエッセイ」など話題のキーワードから展示を企画しました。

★Event 三文の言の葉(11/14~12/9)

今年度からスタートした「東邦基礎」では、本の中から心に響いた三文を選び、感想を一言書くという授業がありました。作品を館内に展示しました。



★Event たっちゃんの紙芝居(10/28)



マーガレット一家・たっちゃんの楽しい紙芝居には142人の来場があり、盛況でした。17人の東邦高校生も来てくれました。

★Event クリスマス絵本展示 (11/14~12/25)



懐かしい名作から新感覚のものまで、表紙を見せて絵本を展示すると館内が一気に華やかになりました。

★Event 図書館コンサート(11/20)

大学祭の催しとして恒例になったコンサート。合唱、ピアノ連弾、マリンバ&ピアノ、マンドリンなど、年々参加者のレベルも上がり、図書館内はやわらかい雰囲気に！





キャンパス短信

法人

「21TOHO教育充実事業募金」

～ご協力に深謝～

21TOHO教育充実事業募金事務局

学園では教育環境整備、施設設備の充実、教育研究活動の奨励に取り組むため、21TOHO教育充実募金活動を展開しております。これまでも多くの方々から多額の募金を頂戴し、高校新校舎の建築や大学新学部増設およびグラウンド新設のための資金として運用させていただきました。皆様方からのご支援に対しては、「人格教育」を重視する建学の精神に立った21世紀に有意な人材を育て、卒業生が実業界をはじめ各界で活躍することで恩返しさせていただきたいと考えております。

なお、募金についての要項ならびに寄付金の免税措置につきましては、大学・高校の各ホームページにも掲載しております。今後ともご理解を賜り、ご賛同をいただけますよう衷心よりお願い申し上げます。

「東邦さわやか水」完成



東邦学園グッズとして「東邦さわやか水」が完成しました。

ペットボトルには東邦高校商業科2年グラフィックデザインコース 日面知美さんのデザインが採用されました。

水は奥美濃高賀山の麓から湧き出た天然水。東邦らしいさわやかな味をぜひお試しください。1本500ml 90円。

注文は(株)イープロまで TEL: 052-781-6011

大学・高校

盛大に第2回納涼音楽祭

高大連携協議会

8月27日(土)夕方6時から2時間半、東邦高校交流の広場で東邦学園主催の第2回東邦学園納涼音楽祭が



高校吹奏楽部と参加者の総踊り



職員手製の花火・ナイヤガラ

開かれました。昼間にわか雨もあがったまだ明るい夕方、学園教職員が提供するかき氷が大人気。焼きそばやたこ焼きの店も開かれて、夏祭りの雰囲気が盛上る中で開会。昨年

を大幅に上回る400人近い観客のほか、地元のフラダンスや盆踊りのサークルなども参加しました。

子ども発達学科の学生によるアンパンマンなどの手遊び、ハワイアン フラ教室のフラダンス、大学吹奏楽団演奏のあと、豊薔会平和が丘教室の盆踊り。後半は大勢の飛び入りも交えての総踊り。東邦高校吹奏楽部の躍動的なマーチングバンド演奏と続き、手製のナイヤガラと数百発の打ち上げ花火でフィナーレを飾りました。

大学・高校

“文化”を感じた3週間

高大連携協議会

11月24日(木)から12月15日(木)の間に、東邦高校美術科生徒の彫刻作品が愛知東邦大学キャンパス内各所に展示されました。生徒たちが自分の作品にふさわしい場所を選び、本部棟前、A棟ロビーなどに展示しました。見応えのある作品の数々は、はじめからその場所を想定していたようにも見受けられました。



大学

大学開催の「教員免許状更新講習」に361人が参加

教務課

教員免許更新制は、教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることで、自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目的に、修了確認期限前の2年間において、30時間(必修講習12時間、選択講習18時間)の免許状更新講習を受講・修了することが定められています。

愛知東邦大学では、2009年度から講習を開設しており、2011年度は必修領域2講座(延べ83人)、選択領域7講座(延べ278人)の全9講座を開設し、361人の受講がありました。どの講座も「免許状更新講習受講者評価書」(受講後のアンケート)を見ると、概ね好評であり、次年度以降も開催に向けて準備を進めています。

本講座は、幼稚園～高等学校の教諭が対象となっており、今後も社会的な要請に応じていきたいと考えています。

大学

起震車による地震体験

防災委員会



本年度も名古屋市名東消防署予防課のご指導ご協力のもと、9月14日(水)消防訓練を実施しました。今回は起震車を使っ

ての体験型訓練となりました。

訓練では、起震車で実際に大きなゆれを体験し、その状況の中で何をしなくてはいけないか、何ができるのかを実感し、ビデオでも再確認することができました。この体験を通じ、昨年3月11日の東日本大震災における地震の恐さを改めて思い知らされました。

今後起こると言われている東海地震などへの準備を、早急に進めて行くことが肝要です。

高校

中学生英語スピーチコンテスト

国際交流室長 伊藤 保憲

英語や国際交流に関心を持つ中学生の皆さんが、日頃の学習成果を発表する場を作り、大きな学びの場となるような機会を提供しようと考えて始めた「中学生英語スピーチコンテスト」は、今年度で第6回目を無事に終了させることができました。

第6回は愛知県と三重県から過去最高の47校145人の中学生をお迎



表彰式の様子

えしました。年々規模が大きくなり、中学校の先生方や、中学生の皆さんのこのコンテストへの関心、期待の高さを感じるようになってきました。本校のスピーチコンテストはスピーチ部門とレシテーション部門に分かれて行っていますが、この数年での変化はスピーチ部門への出場者が倍増していることです。

当日を迎えるまでに、たくさんの時間を練習に費やされたその熱意と努力には心打たれます。また、熱心にご指導をされた先生方にも敬意を表したいと思います。次回も、たくさんの中学生の皆さんに再びお会いできることを楽しみにしています。

『東邦短大の43年』 発刊



2008年3月で歴史を閉じた東邦短大の記録をまとめた『東邦学園短期大学の43年』が、2011年9月11日発刊されました。50ページ足らずの冊子ながら、開学から閉学までの歴史やデータ、それぞれの時期の卒業生の手記、それに大量の写真収録した欲張り編集。短大の歴史をまとめた年表や入学生・卒業生数の推移、大学祭のパンフレットやテーマ集なども含むデータブックにもなっています。大学と同窓会で関係者に配布されました。

クラブ活動 高校

サッカー部

次なる目標

サッカー部顧問 澤田 洋平

2011年度サッカー部の成績は以下のようになりました。

新人戦…ベスト8、県リーグ…優勝、愛知県総体…優勝(全国大会出場)、東海総体…3位、愛知県選手権大会…ベスト8

夏に東北秋田全国総体に出場できましたが、二年連続の一回戦敗退でした。意気込んで挑んだ愛知県選手権大会も自分たちのサッカーが思うようにできず敗退してしまいました。

2011年度の中心メンバーは3年生がほとんどでしたので、チームとしては一からのスタートになりますが、彼らの成長に期待し新チームのカラーを出し、来年度も全国で勝負できるチーム作りをしていきたいです。



男子バレー部

2年連続で全国大会出場

男子バレー部顧問 稲葉 益夫

今年度、男子バレー部はビーチバレーと私学大会の2つの全国大会に出場することができました。

ビーチバレー大会は、2年連続の出場で、予選リーグでは水沢工(岩手)に敗れたものの、勢多農林(群馬)に勝利し予選を通過しました。決勝トーナメントでは、残念ながら優勝校の堺市立堺(大阪)に敗れましたが、満足のいく結果でした。また、私学大会ではインターハイ出場の東山(京都)、横浜商大高、羽黒(山形)、藤井学園

寒川(香川)と対戦し、勝利はできませんでしたが貴重な経験をすることができました。



水泳部

合宿

水泳部顧問 牧野 雅司

水泳部は、年に3回合宿を行っています。ゴールデンウィーク、クリスマスをはさんだ年末、そして3月の春休み直前。どれも5日間以上の日程で、午前・午後と2回練習を行います。授業がある期間は、選手はプールから登校し、プールに帰っていくという不思議なことになります。

練習は厳しいです。しかも、当然のことながら、自分たちのことは自分たちでしなければなりません。食事は無理してでもとらないと、次の練習に影響してくることを経験上知っていきます(食べないと、練習中に「燃料切れ」を起こします)。また、休憩時には休む、就寝時には寝るといったことの必要性も、身をもって知っていくことになります。

こうした経験は、自分の体を知るという意味で、非常に大切なことです。そして、それは他者を知るということでもあり、いかに自分が支えられているかを知ることにもなります。合宿を経ると、選手は格段に成長します。一緒に見守っていただけたら幸いです。

ダンス部

コミュニケーションを大切に

ダンス部顧問 伊藤 恵子

ダンスでは、人との呼吸あわせがとても大切です。1人で踊るのでなく、仲間と同じ空気感を持って心ひとつにダンスで表現することから、舞台と観客との一体感が生まれます。人とのコミュニケーションは、表現する力・伝達する力を身につけることにつながってきます。



2011.11.20 桜丘高校にて

11月は、桜丘高校と合同練習、12月には至学館高校と合同発表会、1月には、私立・公立20校のダンスグループとしてユースフェスティバルに参加します。ダンスを共通項として人と人との“WA”が広がって、豊かな感性を身につけてほしいと願っています。

吹奏楽部

ギュッと青春凝縮♪

吹奏楽部顧問 白谷 峰人

2012年1月7日(土)。愛知県芸術劇場大ホール。

この日、この場所で満開の花を咲かせることを目標に365日頑張ってきました。

2011年10月30日(日)はマーチング東海大会の本番。心に大きく刻み込まれた『音楽』。自分たちの音楽をお客様に伝えることを目指し、気が狂いそうになるほど繰り返された練習は、心と心が繋がる瞬間を創ることになりました。このことを自信にかえて、集大成である定期演奏会にむけてさらに『頑張る』ことを決意しました。

今しかできないことを今だからやる。今だから『頑張る』。定期演奏会で終演の幕が降りるその瞬間に、満開の花が咲き誇り、汗と涙と笑顔が溢れていますように…。

東邦高等学校吹奏楽部第56回定期演奏会

日 時：2012年1月7日(土)

16:50開場 17:30開演(19:40終演予定)

場 所：愛知県芸術劇場大ホール

(名古屋市東区東桜一丁目13番2号)

内 容：第1部 クラシック

第2部 ポップス

第3部 ステージマーチング

入場料：前売券 800円 (当日券 1,000円)

バトン部

龍 舞

バトン部顧問 中橋 杏奈

10月29日(土)に行われたマーチングバンド・バントワリング東海大会にて、金賞を受賞することができました。昨年は東海大会で悔し涙を流し、全国大会への出場が途切れてしまいましたが、生徒たちが「雪辱」の思いで必死に全国大会への切符を手にすることができました。

今年のテーマは「龍舞」。昇り竜のダイナミックさとしなやかさを29人の部員全員が魂を一つにして表現しました。入部当初は体も硬かった1年生部員も同じ舞台に立ち、夏から練習してきた成果を出すことができました。「東邦キャンパス」が手元に届くころには、夢にみた幕張の舞台で生徒たちは最高の演技をしてくれたことと期待して…。



空手道部

秋の収穫を実感す

空手道部顧問 村田 悟

インターハイ出場32回目となり、連続出場20回の表彰を受けた今夏の青森総体から、早4カ月。蒔いた種子は結実したと言えれば言い過ぎか。

10月の新人戦では団体組手男女アベック優勝。決勝は接戦の末の首位奪還であった。男子個人形・男女個人組手も次の東海新人大会に駒をすすめた。桑名での東海大会は、個人組手・櫻井勇作、女子団体組手2種目で岡山全国選抜大会出場を勝ち得た。女子部員は補欠なしの5人きり。昨年に引き続き甲斐田監督が全日本空手道選手権大会メンバーに選ばれ勢いを得た。

この年末年始全国の強豪校と練習試合を重ねる。怪我に苦しむ者、実力の伸長に煩悶する者等々何をか言わんや。敢えて「才能」には収斂させず、努力こそがその答えと励ましたい。修練は連々。



クラブ活動 大学

男子サッカー部

2011年度を振り返って

愛知東邦大学男子サッカー部 一同



私たち愛知東邦大学男子サッカー部は、東海学生サッカーリーグ1部を目標に日々練習に励んでいます。

昨年愛知県リーグから、東海学生サッカーリーグ2部に昇格し、初めて2部リーグを1年間戦いました。残念ながら1部への昇格は逃してしまいましたが、得る物も多く、この1年間の経験を来年度に活かして、1部リーグへの昇格を達成できるようにチーム作りをしていきたいと思ひます。新チームになり、新たなスタッフのもとチーム一丸と頑張りますので、これからもご支援ご指導をよろしくお願い致します。

硬式野球部

硬式野球部秋季リーグ戦結果報告

経営学部地域ビジネス学科2年 小柳 敏明

いつも愛知東邦大学硬式野球部を応援していただきありがとうございます。平成23年度秋季リーグ戦(Ⅲ部)ではⅡ部昇格を目指して臨みましたが、激闘の末3位という残念な結果に終わりました。この悔しさをばねに、さらにチーム一丸となり日々練習に取り組んでいます。春季リーグ戦直前3月には、来年度入部する新1年生を含めた春季キャンプもあり、また新しい戦力が加わりひとまわり大きくなった硬式野球部が誕生すると思ひます。大きくなったチームでⅢ部優勝・Ⅱ部昇格を目指して来シーズンのリーグ戦に挑みます。これからも愛知東邦大学硬式野球部の応援よろしくお願い致します。



昨年の春季キャンプ・集合写真(沖縄県国頭村 くにがみ球場)

愛知東邦大学吹奏楽団

第2回定期演奏会にむけて

愛知東邦大学吹奏楽団顧問 野田 雄一

第2期愛知東邦大学吹奏楽団がスタートして半年以上が過ぎました。今年は例年以上に多くの本番に出演し、沢山のお客様の前で演奏演技を行いました。

それらは全て、3月に行われる第2回定期演奏会へと集約されていきます。

さて、私たちが演奏を行う際、どうしても切り離せないのは『お客様』の存在です。聴いてくれるお客様がいるからこそ、届けたい想いがあるからこそ、私たちは音楽によってそれを表現しようとします。その為に、学生達は必死に練習し、1つでも多くの想いをお



大学祭で演奏する吹奏楽団

客様に届けようと努力します。

文字で表すのではなく、言葉で伝えるのではなく、『おと』という目には見えないもので気持ち

ちや、想いをお客様と共有するというのは生半可なことではありません。しかし、それがお客様に届いたときの喜びは他に味わえるものではありません。奇跡と呼ぶに相応しい瞬間だと思います。一人でも多くのお客様と奇跡の時間を共有できれば幸いです。3月2日(金)に皆様のご来場を心よりお待ちしております。

演奏会情報

日時：2012年3月2日(金)

18:00開場 18:30開演

場所：守山文化小劇場

入場料：無 料

Free Style is Family

人間学部人間健康学科4年 角 朋香

私は大学のダンスサークルのFree Styleに所属しています。

2011年11月20日(日)、大学祭に出演しました。この日までの1年間、頼りにしていた先輩方が引退し、代



盛り上がった大学祭

わりにたくさんの後輩が入り、一から作り上げてきました。途中辞めたい時期もありましたが、仲間と励まし合い、この日を迎えることができました。オープニングからエンディングまで盛り上がり絶えることなく終わることができました。そして全員が今ある力を全て出し切ることができました。夢のような時間を共に過ごすことができた最高の仲間、何が起きても支えてくれた顧問、いつも応援してくれる友達、サークルに関わる全ての人に感謝します。ありがとうございます。これからもFree Styleをよろしくお願ひします。

茶道サークル

人間学部子ども発達学科2年 高柳 久美

こんにちは、茶道サークルです。私たちの流派は表千家で、週1回S棟の和室でお稽古をしています。

11月19日に行われた大学祭では恒例のお茶会を開催しました。大学祭は日頃のお稽古の成果を皆さんに披露する私たちサークルの一大イベントです。男性・女性ともに和服に身を包み、普段の雰囲気とは全く違った、日本の伝統文化に触れていることをより一層感じることができる貴重な日です。

今年は、生憎の天候でしたが、お客様から「ご馳走様」や「ありがとう」と声をかけていただき、おもてなしの心を実感することができました。



これからも日本の伝統文化の1つである茶道を真剣に学んでいきたいと思ひます。

私の留学生活



経営学部地域ビジネス学科2年

リュウコウ

日本に来て3年目になりました。振り返ってみればあつという間に過ぎた時間です。

日本に着いて新しい環境で生活をしなければならない私にとって一番難しく、早く乗り越えねばならないことは言葉の壁でした。当然のことですが、言葉が通じない世界での生活は何よりも寂しかったし、恐ろしいことです。その時、学校の先生やアルバイト先の人達は優しくたくさん日本語を教えてくださいました。今でも本当に感謝しています。

自分を信じる前提は、人を信じることだと思ひます。日本に来てから中国で知る事のできなかった日本を知ることができました。確かに、中国と日本を比べると、文化も違うし、食べ物も違うし、風俗も違いますが、3年間の留学生活で、人間としての優しさと強さは中国人にとっても、日本人にとっても、同じ大切なものだと感じました。人の気持ちを理解すること、人と寄り添うこと、人を温かく受け入れることなど、学校やアルバイト先の人たちからもたくさん感じることができます。

しかし、日本人は今の中国を知らないとも感じました。中国のイメージはずっと前の中国だったので、最初はびっくりしました。国際交流の不足か、異なる文化を理解したくないのであろうかと思ひました。今になって分かってきたことですが、嫌いだったのではなく、知らなかっただけでした。私はいつも、自分の故郷の独特な文化や風土を紹介しています。もちろん、教えることは自分も勉強になります。お互いに文化交流できるように私はこれからも日本の良さをもっと知り、日本人にも中国の良さを知ってもらいたいと思ひています。

私の大学の同級生達を見ると、自分の夢ややる気がある人が多いです。彼らには自分の将来に対する関心の高さが感じられます。3年の間に私も成長しました。独立性だけではなく、生活の方式、価値観、いずれも変わりました。社会に出る前の早い段階で、多様な価値観・文化を学ぶこと、自分の暮らしと世界の関係を学ぶことで、自分の道は自分の力で切り開いていけると思ひます。

パートナーシップ・インフォメーション

フレンズ・TOHO

学園の“サポーター”になっていただけませんか

「面白く、よくわかる話でした」と、参加者の一人。「フレンズ・TOHO」が主催し、安保邦彦講師(愛知東邦大学元教授)による連続3回(11月29日～12月1日。愛知東邦大学にて)の講座を開催しました。「混迷する世界・日本経済から一企業経営の知恵を読む」がテーマ。新聞記者時代に培った豊富な調査と記者魂による鋭い洞察で地域の老舗企業が続けてきたのには、『創業者とその継承者の新しい分野に挑戦する精神力』があった」と、法人会員、個人会員、地域の方々を対象に開催したこの講座には述べ27人の参加がありました。

10月に行われた「近江商人の商い理念を学ぶ『三方よし』を現地にたずねる」企画には、マイクロバスを利用し、初秋の一日、琵琶湖東部地域の五個荘と長浜を訪ねました。このバスの中と長浜で講義と現地説明を担当いただいたのが、森靖雄 愛知東邦大学元教授。参加者の知的好奇心に応え、満足させてくれるすばらしい説明と内容でした。

学園の所有する知的財産を会員・地域に還元するう



えで、仲立となれるのも、この会です。

「“はやぶさ”で得られたこと“はやぶさ2”で目指すこと」と題して、ミニ講演を開催しました。講師は愛知東邦大学高木靖彦教授。7月7日、七夕の夜でした。講演の「副産物」がありました。この講演を縁に愛知東邦大学が東映映画「はやぶさ一遙かなる帰還(2月11日から全国ロードショー)のサポートチームの一人(http://www.hayabusa2012.jp/special/others.html)となりました。



企業や個人がサポーターとなり、私学を支えます。こうしたサポーターの輪を広げ、支援をしていただければだけでなく、サポーターとしてのメリットを感じていただけるような役割を果たすのが当会「フレンズ・TOHO」です。学園の教育方針に賛同していただける一人でも多くの方に加入をお願いしたいと思っています。今後も様々な企画を提供していきます。みなさまの「フレンズ・TOHO」(学園サポーター)へのご加入をお待ちしております。

入会に関する問合せ「フレンズ・TOHO」事務局(愛知東邦大学内)

TEL: 052-782-1241 Mail: friends@aichi-toho.ac.jp

第9回邦友会総会開催

事務局 稲垣 ゆかり

9月11日(日)に開催した同窓会総会は150人の出席をいただきました。今回は東北支援を柱に計画・準備。当日皆さんにご協力いただいた東日本大震災募金35,401円は全額中日新聞社会事業団へ寄付しました。また昨年度から準備していた短大の歴史をまとめた記念誌『東邦学園短期大学の43年』を、参加者の皆さんに進呈しました。イベント出演のマジシャン「TAKUYA」さんも私たちの行事計画に賛同し東北出身者として感謝の言葉をいただき、当日の出演料を全額寄付されたとのことでした。



記念パーティーでのマジックショー

総会は5年ごとに開催しており、最近は毎回大学が変わっていますが、喜ばしいことに、今回は参加する卒業生に四大生が混じるようになりました。

同窓会 東邦会

事務局長 伊藤 保憲

同窓会東邦会は卒業生同士の親睦を深め、ネットワークの源となるよう活動を進めています。年1回行われる代議員会には、少しずつ若い卒業生の参加も増え、活気づいてきています。また、同窓会と学校とのパイプを強くし、学校の教育活動を支援できるような体制を作ることも重要な位置づけをしています。例えば、インターハイ出場の部活動にはこれまでも激励金を贈呈してきていますが、今年度は東日本大震災のボランティア活動に参加する頼もしい現役生に、その教育的意味を考えて必要な支援をしていくことを役員会で確認しました。

また、学園創立90周年の記念事業に向けても準備委員会を設置する方針です。今年度に入って清州支部と関東支部は総会が行われましたが、支部会の活性化のために、支部長会議を開催することも今年度の方針です。

気軽にたくさんの人が集い、楽しく語らえる同窓会を作れるよう努力したいと考えています。

Active students

軟式野球 アジア大会へ参加



大学 軟式野球部 河本 拓也

私は全日本学生軟式野球連盟の選考会にて、日本代表選手に選出され、また日本代表のキャプテンにも任命され、10月5日から11日にかけて中国・北京市で開催された軟式野球のアジア大会に参加させていただきました。

私はこの大会がとても重みのあることだとわかっていましたが、日の丸を背負って戦うことや日本代表のキャプテンを務めることに対して、不安や緊張は全くありませんでした。それは愛知東邦大学・軟式野球部でキャプテンを務め、夏に行われた全日本学生軟式野球選手権大会で優勝し、全国制覇を成し遂げたという自信が心のどこかにあったからかもしれません。

“負けたらあかん”“ミスしたらあかん”そんなネガティブな考えを一切もたず、野球が出来る“幸せ”を感じながら、今この一瞬を“楽しむ”ことだけを考えて大会に臨み、日本がアジアチャンピオンになることが出来ました。

優勝が決まった時、喜びや嬉しさとは別に自分が日本代表のキャプテンを務めて良い結果に結びついたことに対してホッとしました。キャプテンを務めることに対して不安や緊張がなかったはずなのにホッとしている自分がいることに気づいた時、不安や緊張がなかったのではなく、ただの強がりであったのだと思い、まだまだ自分も“未熟”だな、と痛感しました。



今回の経験をこれからも活かすために野球に限らず、多くの面で積極的に頑張っていくと思います。愛知東邦大学で軟式野球をしていて本当に良かったです。ありがとうございました。

三味線で マレーシア海外公演

高校3年 伊藤 大貴

僕は津軽三味線「夢絃塾」に加入しています。「夢絃塾」では、10月30日(日)から11月6日(日)までマレーシアのパナン・クアラルンプール・トレンガズで公演をやらせていただきました。

会場には世界各国からお客さんが来てくださいました。演奏後は会場のお客さんと交流する機会があり、いろいろな方とお話をしました。「素晴らしかったよ」

「感動した」などの声をたくさんいただき、とても嬉しかったです。

睡眠時間もほとんどなくハードなスケジュールでしたが、とても楽しく、自分にとってとても大きな経験をさせていただいたと共に、師範の偉大さを改めて感じた公演でした。



行事予告

東邦学園同窓生 特別入試

愛知東邦大学・東邦学園大学・東邦学園短期大学・東邦高等学校の卒業生の子、または愛知東邦大学在学学生・卒業生の兄弟に対して特別入試を実施します。

特典として愛知東邦大学の入学金が半額となります。一般入試と比べ条件も有利です。ぜひこの機会にご利用ください。

【Ⅲ期 出願期間】 2012年2月1日(水)～2月29日(水)

【お問合せ】 愛知東邦大学 入試広報課 電話：052-782-1600(直通)

TOHO gallery 東邦キヤラニ



大学 野外活動実習
(関連記事6ページ)



大学 インターンシップ
(関連記事6ページ)



TOHO サッカーフェスティバル開催 (関連記事6ページ)



高校 体育祭・文化祭
(関連記事4ページ)



高校 国際交流
(関連記事9ページ)



大学 Free Style
(関連記事16ページ)



高校 修学旅行 (関連記事5ページ)